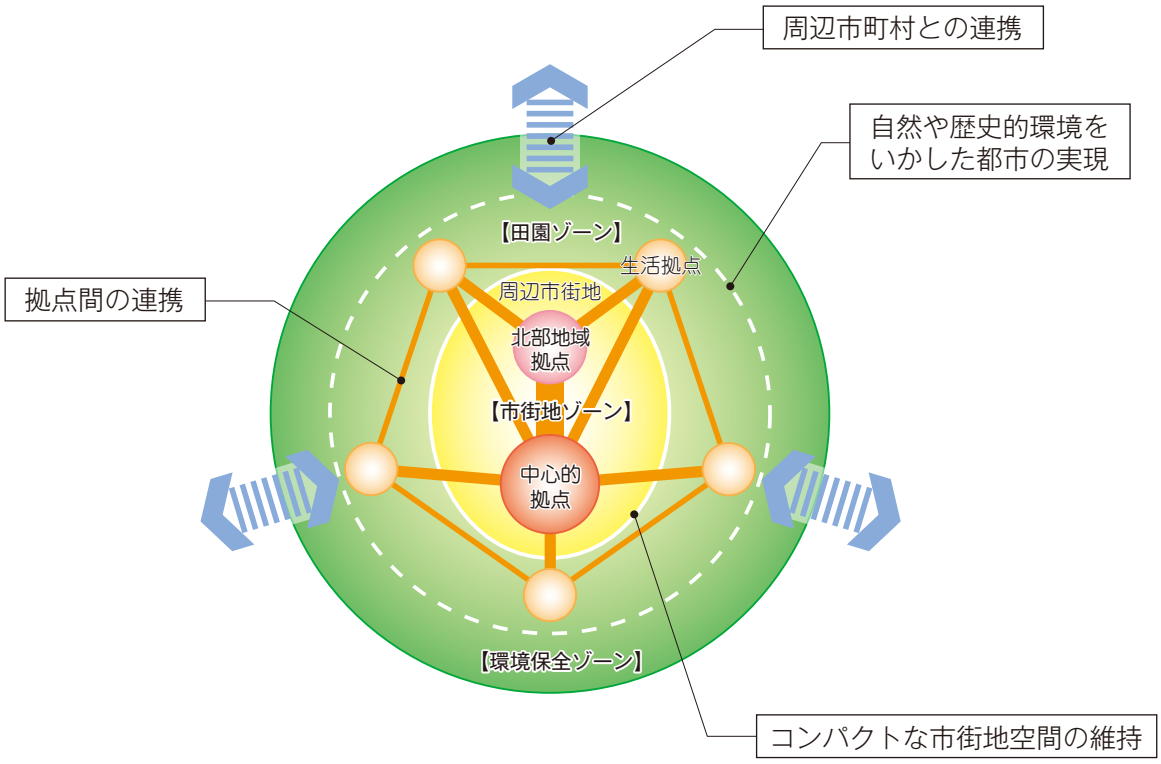
4　将来の都市構造

将来の都市構造とは、都市の将来像や都市づくりの目標の達成を目指して、市域全体の特徴や骨格を空間的かつ概念的に表し、目指すべき将来の都市の姿を分かりやすく描くものです。本市では、以下の基本的な考え方を踏まえて、都市機能が集積する「都市拠点」とこれらを有機的に結ぶ「都市軸」により描くものとします。

（1）基本的な考え方

塩尻駅周辺及び広丘駅周辺を拠点として、市街地の無秩序な拡大を抑制し、既存の公共施設を活用したまちづくりの推進や、開発すべき区域を選択し、都市機能の集約や環境負荷の低減が図れるコンパクトな都市構造を目指します。併せて、様々な都市活動や日常生活において、市街地中心部と周辺の生活拠点が連携しながら活性化する、バランスの取れた都市構造を目指します。



図．都市構造の基本的なイメージ

（２）拠点と軸の配置方針

１）都市拠点

特徴的な都市機能等を有する地域であるとともに、バランスの取れた土地利用を推進していく上で核となる場所は、「都市拠点」として以下のとおり位置付けます。

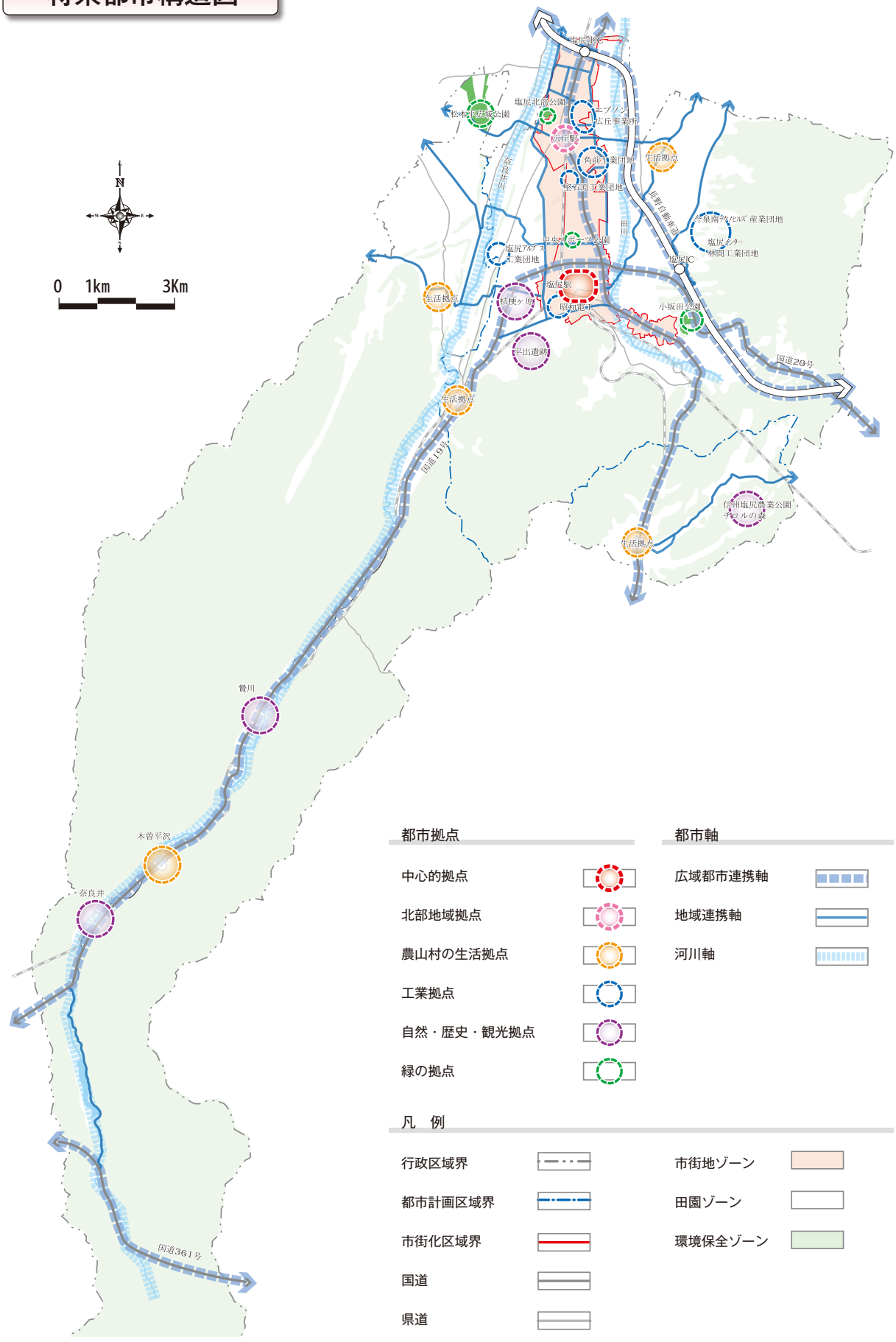
都市拠点	配　置　方　針
中心的拠点	塩尻駅周辺を「中心的拠点」に位置付け、商業・業務、行政、文化等の様々な都市機能のさらなる集積を図るとともに、人・もの・情報が行き交い都市活動を支える中心となる場所としての整備を進めます。
北部地域拠点	広丘駅周辺を「北部地域拠点」に位置付け、日常生活に密着した商業・業務機能の充実や住環境の改善を図り、北部地域における生活の中心となる場所としての整備を進めます。
農山村の生活拠点	農山村において支所や教育施設など公共公益的施設が集まる地域を「農山村の生活拠点」に位置付け、行政サービスや教育、福祉など主に地域住民の日常生活に必要な機能の向上を図ります。
工業拠点	既存の工業集積地やその周辺地域を「工業拠点」に位置付け、本市の産業活動をけん引する工業機能の強化を図ります。
自然・歴史・観光拠点	平出遺跡周辺や宿場町、信州塩尻農業公園チロルの森、桔梗ヶ原周辺を「自然・歴史・観光拠点」に位置付け、地域の自然・歴史資源をいかした観光・交流促進の場として機能の向上を図ります。
緑の拠点	大規模な公園を「緑の拠点」に位置付け、自然とのふれあいやレクリエーション、防災機能など市民生活に憩いとやすらぎを与える場所として機能の強化を図ります。

2）都市軸

都市拠点間を有機的に結ぶ道路や市域を流下する河川は、交通機能や防災機能、うるおいの空間など都市活動を支える「都市軸」として、以下のとおり位置付けます。

都 市 軸	配　置　方　針
広 域 都 市 連　携　軸	主要都市間を結び、周辺都市との交流や産業活動を支えるとともに、各地域の中心部や拠点間を結ぶ都市の骨格となる道路を「広域都市連携軸」として位置付け、本市全体の発展を支え、道路交通、都市防災、交流及び緑の空間など様々な役割を担う空間としての機能を持たせます。 ⇒長野自動車道、国道19号、20号、153号など
地 域 連 携 軸	広域都市連携軸を補完し、市域を有機的に結ぶ道路を「地域連携軸」として位置付け、市内の各地域間の連携・交流の促進や産業の振興を担う空間としての機能を持たせます。 ⇒ (主)松本塩尻線、(県)御馬越塩尻停車場線、(県)床尾大門線、広丘西通線、広丘東通線、高校北通線など
河　川　軸	市域を南北に流下する河川を「河川軸」として位置付け、田園都市におけるうるおいとやすらぎを与える空間としての機能を持たせます。 ⇒奈良井川、田川など

将来都市構造図



都市拠点

- 中心的拠点
- 北部地域拠点
- 農山村の生活拠点
- 工業拠点
- 自然・歴史・観光拠点
- 緑の拠点

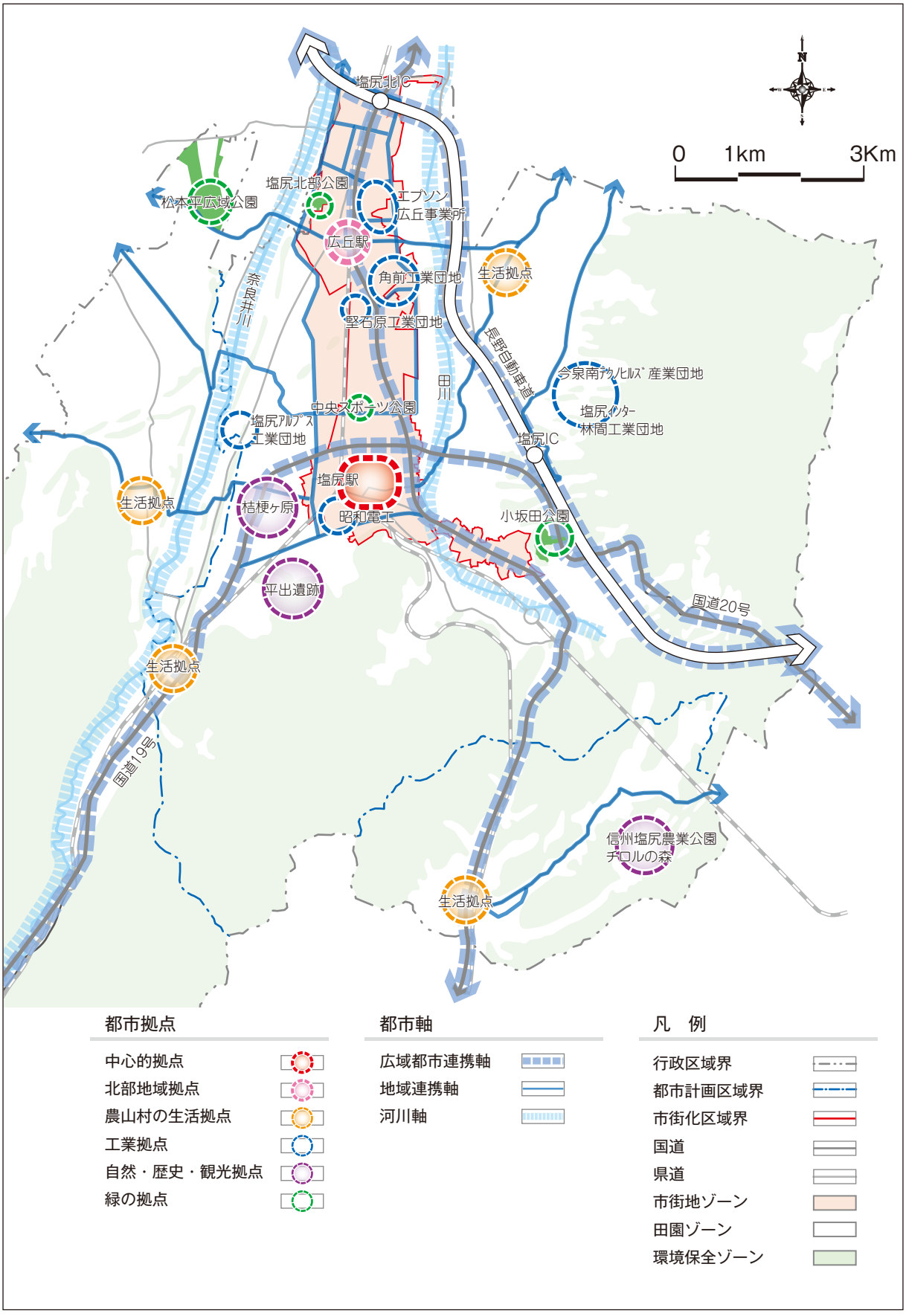
都市軸

- 広域都市連携軸
- 地域連携軸
- 河川軸

凡　例

- 行政区域界
- 都市計画区域界
- 市街化区域界
- 国道
- 県道
- 市街地ゾーン
- 田園ゾーン
- 環境保全ゾーン

将来都市構造図（都市計画区域内拡大）



「都市づくりの目標」及び「将来の都市構造」の実現を目指して、以下の６つの「都市整備の方針」を定め、まちづくりを進めていきます。

○ 都市整備の方針（各分野における主要な都市計画決定の方針）

- □ 土地利用の方針
- □ 道路交通網の整備方針
- □ 公園・緑地の整備方針
- □ 河川・下水道の整備方針
- □ 景観形成の整備方針
- □ 安全・安心な都市づくりの整備方針